

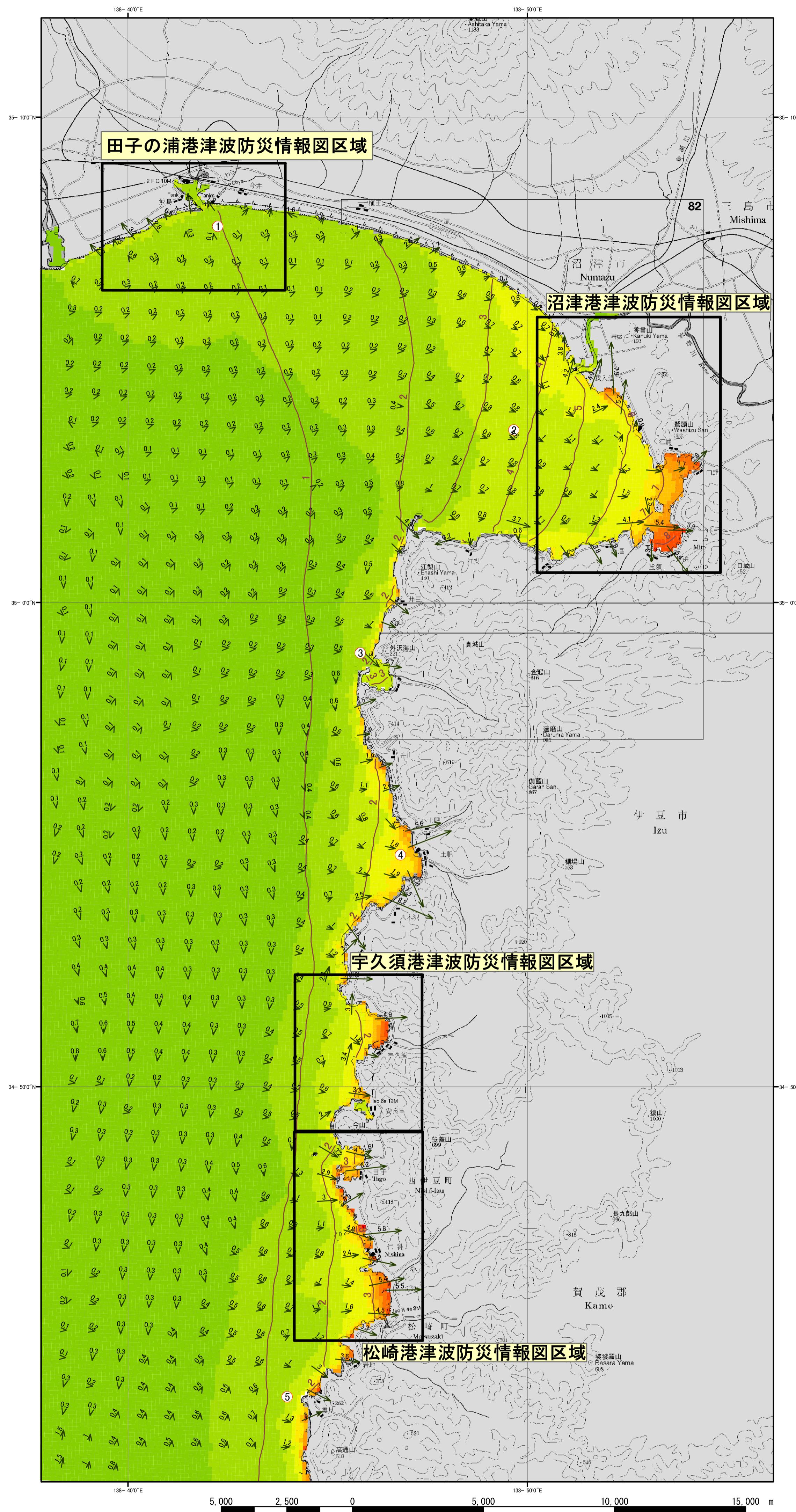
想定東海地震による駿河湾東部津波防災情報図広域版（進入）

計算条件：最高水面・150mメッシュ

隆起量：平均11cm(-3cm~132cm)

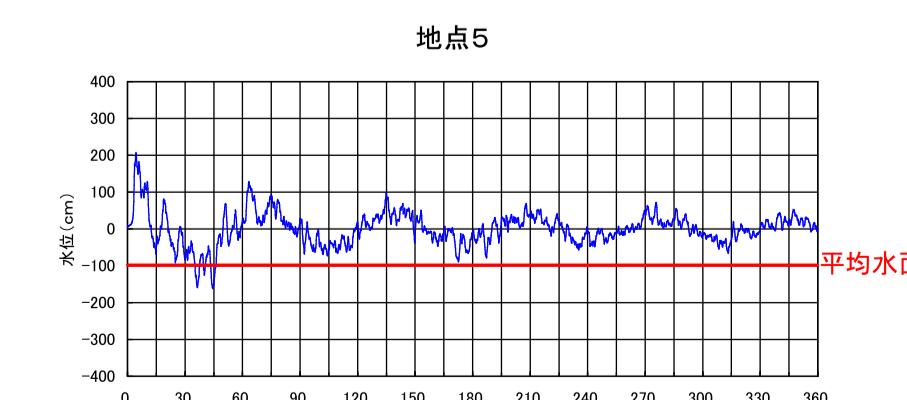
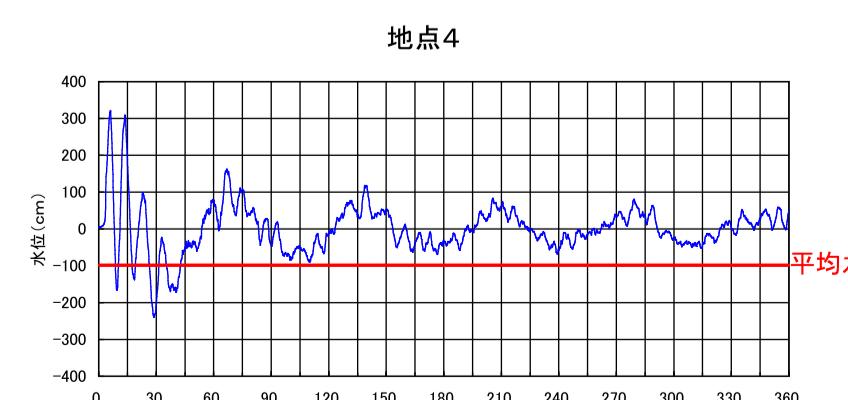
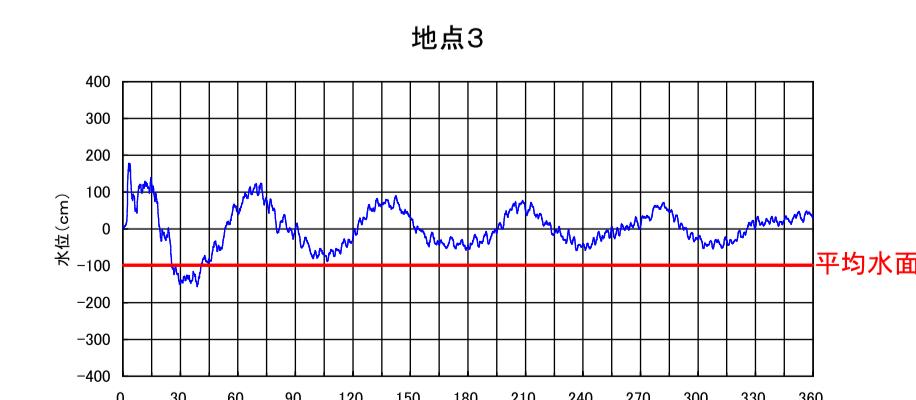
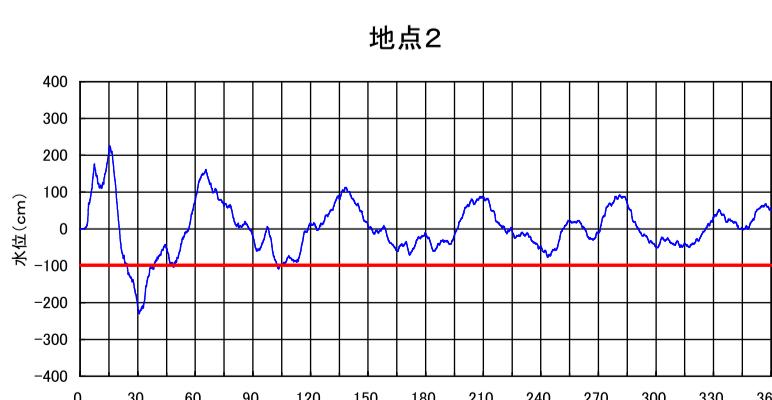
この図は150mメッシュで計算した津波の概要版であり、港湾内や沿岸域の情報は必ずしもシミュレーション結果が正確に反映されていません。なお、「津波防災情報図」(50mメッシュで計算)が整備されている海域はそれを参照してください。

N
W E S
1:100,000
座標系：メルカトル図法
測地系：世界測地系(WGS84)



この図は発災時から6時間のシミュレーションを行なっており、最大流速の矢印は、6時間のシミュレーション時間から150mメッシュ7*7個(1050m*1050m)の49個から最大のものを表示しています。
表示されている流速矢印は津波による流向、流速を示しており、海潮流の要素は考慮されていません。
津波の到達時間は、水位が10cm上昇した時点を算出しています。
経時変化図(水位変動のグラフ)は最高水面を基準面として、6時間の津波の水位変動を表示しています。時間による潮汐の変化は考慮されておらず、津波は計算条件の基準面に収束します。
経時変化図に記載されている赤線は、潮汐が無いと仮定したときの海面(平均水面)を現しています。
陸部の情報は海図から採用しています。
計算に使用した地形データは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ及び海図を作製する際の基礎データを使用しています。

この地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。(承認番号平:15総使、第672号)



凡例

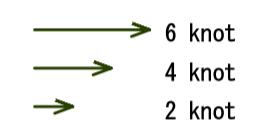
水位上昇(+10cm)となる等時線[分]

経時変化図出力点

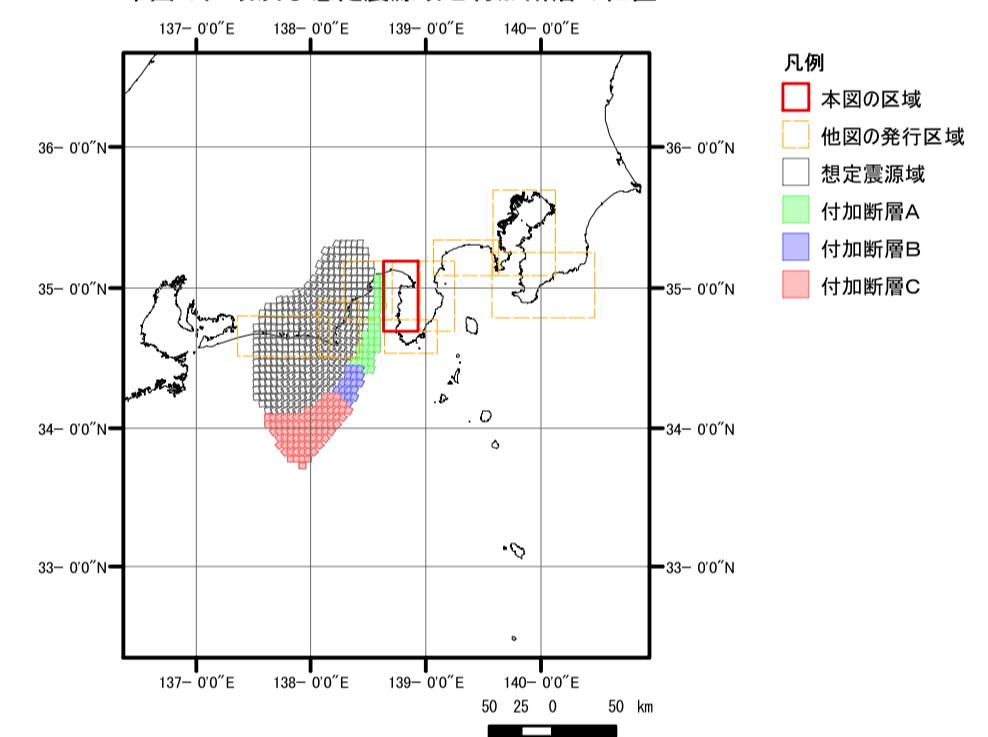
最大水位上昇



進入時最大流 [knot]



本図の区域及び想定震源域と付加断層の位置



	中央の概位	中央の深さ
想定震源域	34°45'N, 138°02'E	19 km
付加断層A	34°45'N, 138°30'E	4 km
付加断層B	34°15'N, 138°20'E	6 km
付加断層C	34°00'N, 138°00'E	7 km

本図は、中央防災会議「東海地震に関する専門調査会
(平成13年12月11日)」で公表された断層モデルを使用した。

経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

地点1

